資料９

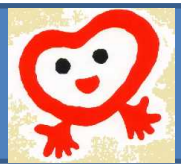
ブロック会議資料（都道府県の献血推進事業）に係る質疑事項

都道府県名　：岡山県

【静岡県、三重県】
　高校生サポーター事業では、制度の周知や協力の依頼など、サポーターの募集で御苦労されているようですが、どのような調整を行って事業を実施されているのかご教示ください。（関係機関との調整や、具体的な募集方法、血液センターとの役割分担など）

（静岡県回答）
　静岡県内には７つの県保健所があり、各保健所ごとに所管する地域の高等学校の数やボランティア関連の部活動の設置状況等を踏まえ、協力を呼び掛ける市町に偏りがないように考慮しながら、毎年各高等学校に献血ボランティアの協力を依頼し、協力校を２～３校（高校生 20～30 人）選出している。献血ボランティアが行う地域住民への献血啓発は、地域の健康祭り等、地域住民が集まるイベントで行うため、各保健所では、血液センターとイベント会場における献血バスの配車について調整をしている。
　また、例年、事業実施通知を各保健所に発出する際には、県教育委員会や日赤県支部及び血液センターに事業への協力依頼を文書で行っている。

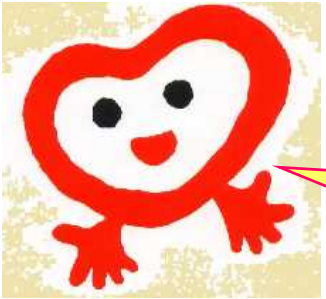
（三重県回答）
　サポーターの募集にあたっては、毎年度５月に保健所及び血液センター職員が県内高等学校を訪問して協力依頼を行っています（先方の都合で訪問できない場合は文書を送付）。可能な限り学校長にお会いして献血への理解を求め、学校全体で協力いただけるようにお願いしています（訪問日程の調整は保健所）。サポーターを対象とした血液センター見学会等の事業実施の際は、参加者募集を保健所からサポーター在籍校に対して行い、会場提供や講義等で血液センターに協力をいただいています。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】（静岡県）アボちゃんサポーター事業①

県保健所の所管地域にある高校の生徒を献血ボランティア 「アボちゃんサポーター」に委嘱した。県内高校生164人のアボちゃんサポーターが学内献血や学校祭、地域の健康まつり等において献血広報活動を実施し、活動記録「ABOニュース」を作成した。

【1目的】高校生の献血ボランティアによる同世代や地域住民への献血意識の普及
【2事業内容】〇健康イベント会場における献血啓発コーナーによる地域住民への献血普及啓発
〇学園祭における献血広報、啓発
〇コミュニティーFMを活用した啓発
〇ABOニュース（血液事業への提言）の作成
【3実施期間・場所】平成27年6月～平成28年1月（県内高校及び健康イベント会場等）
【4対象者】県内の高校生（18校、164人）
【5実施手順】事業実施通知を発出⇒各保健所においてアボちゃんサポーター委嘱
⇒献血意識啓発活動⇒ABOニュースの作成



静岡県オリジナル献血キャラクター
アボ（ABO）ちゃん

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】（静岡県）アボちゃんサポーター事業②

【6実施に際して苦労したこと】少子化に伴う県内高等学校の統合等により、近年県内高校数が減少しているため、事業の協力校の調整に苦労している地域がある。
【7予算額】1,789,000円
【8来場者】地域住民（地域イベント来場者）
【9効果（評価）】静岡県献血推進計画にある若年層対策として実施し効果的であった。将来の献血を支える高校生が献血への理解を深め、ボランティア活動を通じて同世代や地域住民等に献血意識を啓発した。
【10改善点（又は問題点又は反省点）】特になし
【11今後の課題（又は今後の対応方針）】アボちゃんサポーターからの「血液事業への提言」を参考に、今後の若年層対策に活かせるよう検討する。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
三重県 「ヤングミドナサポーター制度」

【1目的】地域や学校等における献血啓発活動へ参加し、ボランティアとしての社会参加を体験するなかで、命の尊さや思いやりの心を育ててもらうとともに、献血の大切さを理解してもらうことを目的としています。

【2主な活動内容】
（1）各地域で実施する献血啓発活動への参加（通年）
（2）高等学校文化祭等における献血啓発活動の実施（通年）
（3）三重県赤十字血液センターの見学（7月）
（4）高校生献血推進会議への参加（9月）
（5）模擬献血等への参加（12月）

【3実施日・場所】 1年間を通じて活動

【4対象者】 高等学校、大学ならびに各種専門学校等の学生

【5実施手順】 各地域や学校等において、献血啓発活動に参加いただく献血ボランティアを広く高校生等から募集し、「ヤングミドナサポーター」として委嘱

【6実施に際して苦労したこと】 ヤングミドナサポーター制度の県内各学校等への周知

【7予算額】 771，429円

【8効果（評価）】 平成27年度は、704名（過去最高人数）を委嘱

【9改善点】 平成26年度から、より自発的に献血について考えていただく機会として、高校生献血推進会議を開催。また、平成27年度からは、ヤングミドナサポーターを対象とした模擬献血を実施

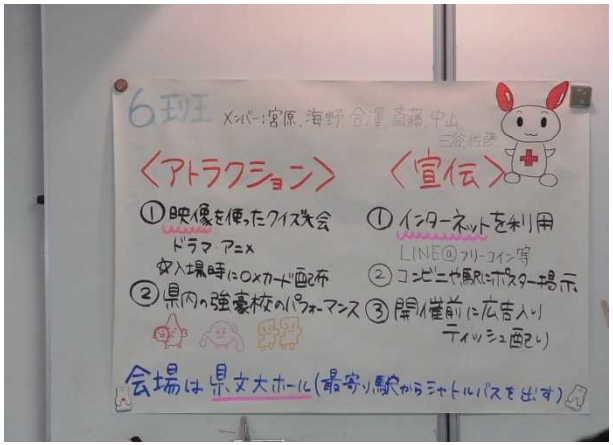
【10今後の課題】 活動範囲の拡大及び、ヤングミドナサポーター在籍高校への献血バスの導入

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
三重県 「ヤングミドナサポーター制度」

平成27年度高校生献血推進会議

1. 日時　平成27年9月12日（土）
2. 場所　三重県赤十字血液センター
3. 参加人数　29名
4. 内容

（1）13時30分～13時40分　開会の挨拶
（2）13時40分～14時10分　献血についてのセミナー
（3）14時10分～14時20分　献血推進会議についての説明
（4）14時20分～14時30分　休憩
（4）14時30分～15時50分　各班に分かれて討論
　　議題:「三重県献血功労者表彰式におけるイベント内容について」
（5）15時50分～16時20分　発表
（6）16時20分～16時30分　総評、挨拶



会議終了後の感想

・高校生目線の意見がいっぱい出て良かった。
・他校の生徒さんと献血について深く考えられてとても楽しかった。
・献血の必要性が分かってよかった。
・献血はまだ出来ないが、協力できることが嬉しかった。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
三重県 「ヤングミドナサポーター制度」

血液センター見学会

模擬献血の様子

ミドナ通信

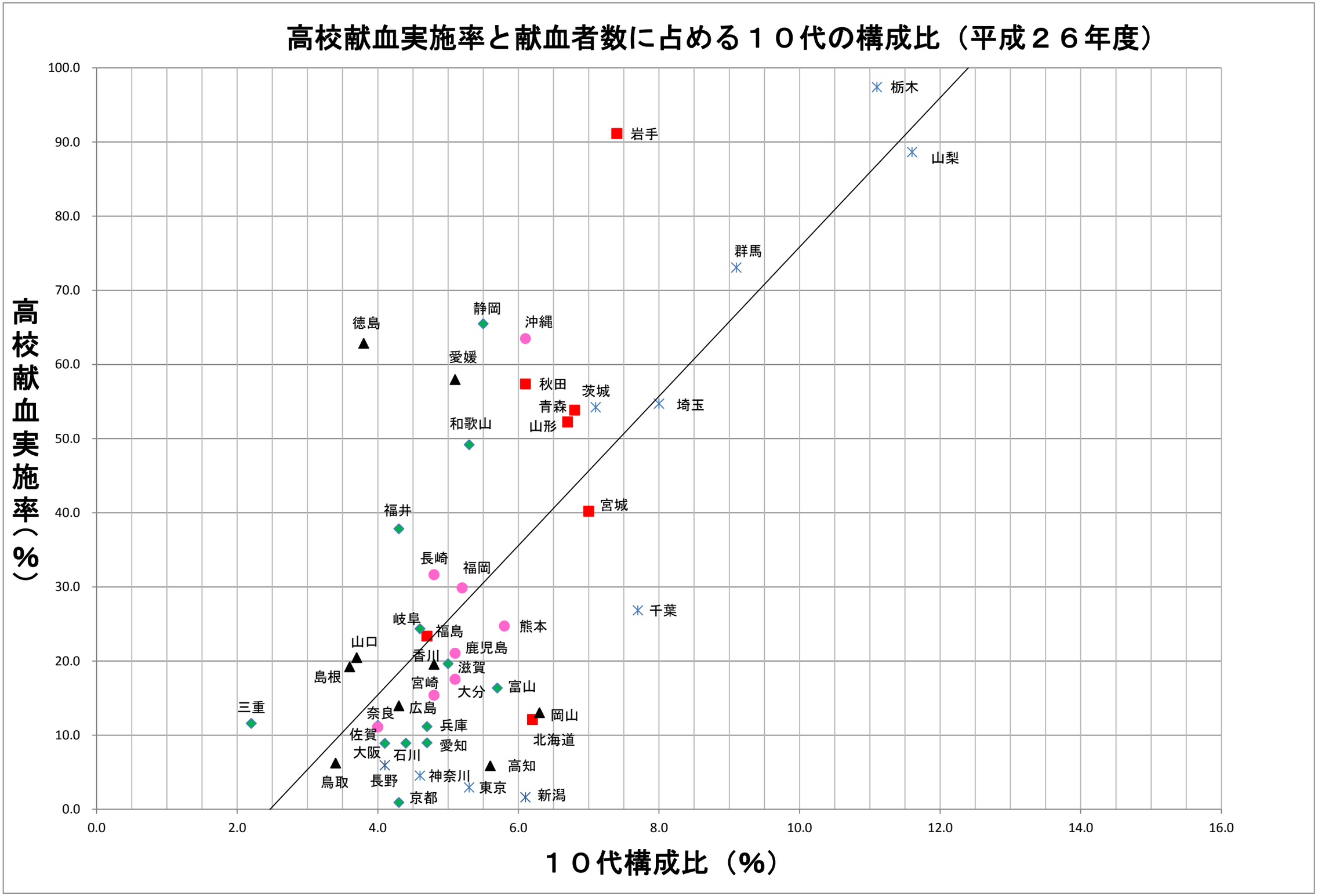
ブロック会議資料（都道府県の献血推進事業）に係る質疑事項

都道府県名　：岡山県

【千葉県】
　血液関係ブロック会議で配布された厚労省資料の「３０　都道府県別の高校献血率と１０代献血率」（Ｐ１０２）では、高校献血実施率は２０％台であるにもかかわらず１０代構成比では８．０％に近い割合となっています。発表資料に掲載されている高校生へのアンケート、ポスター事業、中学生向けテキストの他にも、１０代向けの取り組みをされているのであれば、ご教示ください。

（千葉県回答）
本県の若年層対策としては、上記の他に
①千葉県学生献血推進協議会会員の強化
②大学献血における３人１組キャンペーンの実施
を行っております。
①を図った結果、会員数が１５０名から１９０名に増加。献血勉強会を実施し、献血の意識・理解を高めたことにより、大学献血、献血ルームでの献血の促進に繋げることができた。
また、②においては、３人１組で献血に参加した献血者に記念品を提供し、次回につなげるために、代表者宛ての葉書を作成し、次回献血にも再び３人で参加していただくことにより、献血者を確保した。

30　都道府県別の高校献血実施率と10代献血率



ブロック会議資料（都道府県の献血推進事業）に係る質疑事項

都道府県名　：　香川県

青森県さんに質問いたします。

【平成２８年度に取組予定の献血推進事業】の「はじめての献血キャンペーン」について

１　平成28年度の現在までに、「はじめての献血協力カード」を持参された方はいらっしゃいますか。

２　費用負担（県、赤十字血液センター）について、差し支えのない範囲でお教えください。

（青森県回答）

１（実績）

平成28年1月10日～9月30日

・カード配布数　　3,199枚

・献血者数　　249人（応諾率7.8%）

２（費用負担）

合計 407,160円（センター負担）

（内訳）

・「はじめての献血協力カード」　10,000枚　　@7.7円

・オリジナル記念品「マグカップ」　1,000個　　@300円

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（青森県）はじめての献血キャンペーン

【1目的】 献血者の底辺拡大及びリピーターを増やす。
【2予定内容】 初回献血者の方へ、「はじめての献血協力カード」を配布。そのカードを持参し再度献血に協力ただいた方へ「オリジナルマグカップ」を進呈。
　※献血経験者の方にも、初回献血者を連れて一緒に献血協力いただいた場合はカード配布。
【3実施日・場所】平成28年1月10日～平成29年3月31日　青森県内の献血ルーム・バス
【4対象者】献血未経験の方
【5昨年度実績】平成28年1月10日から「はじめての献血協力カード」を配布したが、平成27年度中に持ってきた方はいなかった。

ポスターデザイン

オリジナルマグカップ

はじめての献血協力カード

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（青森県）はじめての献血キャンペーン

【6実施手順】 ①記念品の購入、協力カード印刷の発注
②ポスター、チラシの作成
→各採血現場に掲示、チラシは献血バスでの実施事業所へ配布。
③ホームページへ告知を掲載。
④マスコミへのニュースリリースを作成し、キャンペーンについての報道依頼。

【7予算額】 407,160円
（内訳）オリジナルマグカップ 324,000円（@324円×1,000個）
協力カード印刷費 83,160円（@7.7円×10,000枚）

【8目標】 期間中、新規献血者6,000名の確保。
【9実施に向けた課題】
「キャンペーンを知って来た」という方が少ないので、今後はより効果的なキャンペーンにするための広報活動を展開しなければならない。